

# 山口市芸術家育成支援事業

第4回やまぐち新進アーティスト大賞

第4回やまぐちACS賞 (*The Artist of Citizens Selection*)

応募アーティスト数：8名

最終選考 候補者：6名

うしお 牛尾	あつし 篤	(53)
きはら 木原	あこ 亜古	(49)
こやま 小山	まさかず 祐和	(48)
たけべ 竹部	とくま 徳真	(24)
つちや 土谷	ひろこ 寛子	(28)
ほてはま 保手濱	たく 拓	(31)

(50音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

## (総評)

第4回やまぐち新進アーティスト大賞の審査会は、まず投票方式により、出品受付順で土谷寛子、牛尾篤、木原亜古、小山祐和、竹部徳真、保手濱拓の6氏が選出された。その後2回の挙手により、土谷、保手濱のお二方が満票で大賞候補に絞り込まれた。1時間半に及ぶ議論の末、保手濱氏が推挙された。併せて将来に向けて建設的な意見も出た。保手濱作品の“うつろう”もさることながら、詩画集“美しさのまわり”はあの津波の前日、3月10日に発刊されたものであった。

今後、氏の山口を拠点に世界のアートシーンへチャレンジする新しいエネルギーに期待したい。

(第4回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 足立明男)

### (やまぐち新進アーティスト大賞選評)

作品「うつろう」は緩やかな線と温かみのある色彩で、山のようにも見える抽象的な形と水平線が単純化された構成で描かれている。日常目にする地域の自然であろうか。その山肌のような面の、光の方向と時間によって微妙に変化していく色彩の重なりが、観る者をひととき優しく包んでくれる。作者の詩「秋の」の一節が思い浮かんだ。

作者は「作品や活動を通して、人や街の豊かさに貢献できる作家」になることをめざしており、日常生活や環境における目立たないものや小さなもの、弱いものなどに優しいまなざしを向ける。その出会いの時々を、作者の絵画的言語で記録に残している。芸術作品をつくろうという身構えや力みを感じさせず、観る者だけでなく、自らも表現することを楽しんでいるようだ。

作者は絵画のほか、版画や写真、自ら詩を書いたり創作意欲が大変旺盛であり、今後も1年間で1000枚のスケッチを目標としているとのこと。連続2回の大賞応募の姿勢についても、今後の一層の活躍を期待させるのもであると、内容とともに評価された。

(第4回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 小田善郎)

### ・・・第4回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

足立 明男 (山口情報芸術センター館長)  
井生 文隆 (山口県立大学教授)  
石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館学芸課長)  
小田 善郎 (画家)  
田辺 武 (彫刻家)

(50音順・敬称略)

### ・・・第4回やまぐちACS賞審査委員会審査委員・・・

市民審査委員12名

・阿部 萌           ・今本 逸郎    ・岡村 千代子    ・木村 悠莉  
・國弘 奈津江    ・越口 こずえ    ・曾田 元子      ・田尾 円香  
・野上 雅史      ・山田 洗一郎    ・山寺 わかな    ・横沼 誠一

(50音順・敬称略)